

男女共同参画社会を目指して



女だから、男だから、ではなく、**私だから**の時代へ

問い合わせ
市民サービスグループ
(☎082 139)

私たちは、性別に関わらず、自らの意思で、社会のあらゆる分野に参画する権利があります。

固定的な性別役割分担意識やジェンダーに関する偏見など、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）による影響が生じないように、社会全体の意識改革と理解の促進を図ることが『男女共同参画社会』の実現に必要な不可欠です。

互いの性別や個性を認め合い、私達一人一人が豊かに暮らすことのできる『男女共同参画社会』を目指しましょう。

男女共同参画社会

男女が性別にかかわらず、対等なパートナーとして、自らの意志により社会のあらゆる分野に参画することができ、男女が均等にさまざまな利益を享受して、共に責任を担うことができる社会が、『男女共同参画社会』です。

このような社会を実現するためには、性別に関する偏見や差別をなくし、一人一人がその個性と能力を十分に発揮できる環境づくりが大切です。

無意識の思い込み

アンコンシャス・バイアス

『アンコンシャス・バイアス (Unconscious Bias)』という言葉を知っていますか。

『アンコンシャス・バイアス』は、『自分自身では気づいていないものの見え方やとらえ方のゆがみや偏り』のことです。『無意識の思い込み』『無意識の偏見』『無意識のバイアス』などと表現されることもあり、普段の会話や生活の中で多く見られます。

アンコンシャス・バイアスに関する調査結果(性別役割意識)

令和3年度内閣府男女共同参画局実施

	男性	女性
1位	女性には女性らしい感性があるものだ	
2位	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	
3位	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	女性は感情的になりやすい
4位	女性は感情的になりやすい	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない
5位	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ

『アンコンシャス・バイアス』は、過去の経験や周囲の意見、日々接する情報などに影響を受けて形成されます。多くの人が持っているもので、それ自体が問題ではありません。

問題は、それにより知らず知らずのうちに相手を傷つけたり、個性や能力を生かして自分らしく生きることが阻害され、自身の可能性を狭めてしまうことです。

これらを解消するためには、『アンコンシャス・バイアス』の存在を知り、自分の日頃の行動に潜む、性別による無意識の決めつけや押しつけに気づくことが大切です。

あなたもありませんか？ こんなアンコンシャス・バイアス

- 性別によって任せる仕事や、役割を決めることがある
- 性別、年代、学歴などで相手を見ることがある
- 「親が単身赴任中」と聞くと、父親を思い浮かべる
- DV（ドメスティックバイオレンス）と聞くと、被害者は女性だと思う
- 「男のくせに」「女のくせに」など思うことがある
- 血液型を聞いて、相手の性格を想像することがある





アンケート調査にご協力ください

市は、令和5年度から計画期間の開始を予定している『登別市男女共同参画基本計画（第3次）のぼりべつ・はあもにいプラン21』の策定にあたり、市民の皆さまの男女共同参画に関する考えや意見を参考とさせていただくため、アンケート調査を実施します。

お手元にアンケート用紙が届いた方は、ご協力いただきますようお願いいたします。

- 実施期間 3月上旬
- 調査対象 無作為に抽出した18歳以上の市民1,000人

みんなで目指そうSDGs×ジェンダー平等



SDGs（持続可能な開発目標）とは、世界で広がる貧困・格差・地球環境の危機を克服し、誰一人取り残さない持続可能な社会・経済・環境を目指す、世界共通の目標です。

SDGsの目標5は『ジェンダー平等を実現しよう』。ジェンダーとは社会的・文化的に作られた性別のことです。ジェンダー平等は、ジェンダーによる差別を無くし、多様な性のあり方を受け入れ、誰もが平等に能力を発揮することです。

市は、この目標の推進に向けた取り組みを進め、『男女共同参画社会』の実現を目指します。

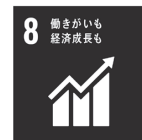
ジェンダー平等に係わるSDGs



目標3
すべての人に健康と福祉を



目標4
質の高い教育をみんなに



目標8
働きがいも経済成長も



目標16
平和と公正をすべての人に

3月8日は国際女性デー



1908年アメリカ、ニューヨークで行われた婦人参政権を要求するデモを起源とし、国連が国際婦人年（1975年）に3月8日を『国際女性デー』と決めました。もともとは、女性の社会参加や地位向上という政治的な意味合いが強かった『国際女性デー』ですが、現在では女性の生き方を考える日として女性団体による記念事業やイベントが各地で開催されています。

また、厚生労働省では、『国際女性デー』と絡めて毎年3月1日から3月8日までを女性の健康週間と定め、女性の健康づくりを国民運動として展開しています。

11月19日は国際男性デー



1999年、カリブ海の島国トリニダード・トバゴで始まったとされる『国際男性デー』は、男性の健康や生き方に目を向け『男らしさ』、『男だから』といった男性特有の生きづらさについて考えたり、ジェンダー平等を促すことが目的とされています。

『国際女性デー』に比べ国内ではまだ知名度が低い『国際男性デー』ですが、ジェンダー平等は、誰もが当事者です。女らしさ、男らしさにとらわれず、自分らしく生きるためにも社会全体が意識を変えていく必要があります。

※『国際男性デー』は、国連が制定した国際デーに含まれていません。

3月8日は『ミモザの日』

イタリアでは3月頃、黄色い鮮やかなミモザの花が咲くことにちなんで、3月8日の『国際女性デー』は『ミモザの日』とも呼ばれています。この『ミモザの日』には、男性が女性に敬意と感謝を込めて、ミモザの花を贈る習慣があります。また、パートナーだけではなく、母親や祖母、友人、同僚など大切な女性に贈るといわれています。